

コールサインに まつわる思い出

JA3AA 島伊三治

アテネオリンピック関連のSY2004KFをはじめ、LY2004P、4O6100BB、UN100KTZ、4N3100NA等々やたら長いコールサインの局が増え、ハムログのコールサイン欄に収容しきれず四苦八苦している今日この頃です。

これは、国際電気通信連合 (ITU) の 2003 年世界無線通信会議 (WRC-03) において、アマチュア



局の呼出符号の構成を規定していた無線通信規則第 19 条 (1 または 2 文字 + 1 数字 + 最大限 3 文字) が改正されたのが主な原因と思われる。

国内でもこれを受けてアマチュア局のコールサイン指定基準が、行事等の一時開設のイベント局、国際宇宙基地と通信用の臨時開設の局に対しては、例えば近畿管内では 8J3 または 8N3 の次に、1 字以上 5 字以下のアルファベットまたはアルファベットと数字の組み合わせ、ただし最後の字はアルファベット。と改正されました。この新しいコールサインの指定基準で、サフィクスが 3 文字を超える局は、7 月 7 日付け免許の 8N3ARISS を最初に、8N1N5SA、8J4ARDF が誕生しました。コールサインの自由化? もここまで来たかという思いとともに、コールサインにまつわる今までの思い出を書いてみました。

1955 年 3 月、移動局 (移動するアマチュア局) の免許に当たっては、現在免許のもと別のコールサインとするということで、JA3RL が指定されました。初代の JA3RL は私なのです。このコールサインで一度再免許を受けていたと思います。

1970 年の大阪万博では JARL の局ですがクラブ局として例外的 JA3XPO のコールサインを戴きました。本当は、8J3XPO が欲しかったのですが、大阪万博会場内でサンフランシスコ市がアマチュア局の場所を提供しようとの電文を見たのが 1 月 19 日で、3 月 14 日の開幕までには時間的余裕がなく、8J3XPO の希望は述べましたが、XPO のコールをもらうのが精一杯でした。念願の 8J3XPO は 1981 年のポートピア博で実現しました。

特に思い出に残るのが、1990 年花博の 8J90XPO です。コールサインの数字が 90 と 2

4 ページに続く

JR3IXB / VP9 運用レポート

W2/JR3IXB 沖正典



8 月 26 日 ~ 30 日の間、家族でバミューダ島 (VP9) へ旅行しました。昨年 4 月にも行きましたが、私としては、前回の QRV 時にハイバンドで JA とオープンしなかったリベンジの気持ちも有りました。また、前回と同様 VP9GE/Ed さんのシャックを借りることにしました。



VP9GE の家

August 26, 2004 Thursday

NY からバミューダ島へは飛行機で 2 時間少しの距離です。午前中に移動し、現地正午前にホテルに着きました。チェックインは午後 3 時だったので部屋は未だ用意できておらず、早速、皆でプールへ。プールサイドから Ed さんに携帯で到着の連絡をしました。なんとバミューダでは米国の携帯電話がそのまま使えるのです。どうも米国の電話網の中にそのまま組み込まれているようで、国番号自体 <1-441> が米国内のエリアコードと同じ扱いになっています。その他、電気 (110V でプラグも同じ) やお金もそのまま OK です (米ドルとバミューダドルが等価で、通貨も混在して使われています)。米国と明らかに異なるのは車が左側通行 (ハンドルは右) ぐらいで、これだけ



アンテナ

は旧英国領の影響を受けているようです。2nd と X がプールで遊んでいる間に私はホテルのチェックインを済ませ、Ed さんにホテルまで迎えて来てもらいました。Ed さんのシャックでリグ (FT920) やアンテナ (前回不調だった 3 エレトライブアンダーと 7MHzDP) を確認後、ホテルの近くにあるレンタルスクーターの店まで連れて行ってもらいました。バミューダでは、レンタカーを借りることができません。もちろん島の居住者は車の運転ができるのですが、旅行者は車の運転が認められていないのです。その代わりに誰でも成人であれば、レンタルショップのおじさんからスクーターの説明を受け (安全運転講習です Hi)、彼の前で小回りで何周か運転できることを見せる (運転試験です Hi) だけでスクーターを借り出せます (2 人乗りも OK)。結局、この日の夜は早めの夕食となり、少しお酒も回り電波は出せません (= シャックに行けません) でした。

August 27, 2004 Friday

午前 5 時に目覚ましを合わせましたが、ゆっくりと起き出し、ホテルからシャックまでスクーターを走らせました。先ず 7MHz を聞きましたがノイズが S7 まで振れています。CW で CQ を出すと W から呼んできましたが、ノイズと同じ位の信号だったので取り難いこと...これだけ



次ページに続く

前ページより続く

はJAの信号は取れないと判断し、次に10MHzへ。CQを出すも空振りばかり…そして14MHzへ、うーむノイズしか聞こえません。もうほとんどあきらめモードになっていたのですが、14MHzはJA3BOA/乾さんと午前8時(JA午後8時:丁度12時間の時差)にSKEDを組んでいたもので、それまでは波を出そうととりあえずCQ…。でも空振りの連続でした(Hi)。こらアカンとダイヤルをクルクルと廻しているとJAのCQが突然59+で入感!JHOHQP/丸山さんでした。Sの強さは設備を聞いて納得。そのままFreqを使わせていただき、また当局のコールをパケクラに上げていただいたおかげで、突然、JAからのパイルに・・・よかった!何局か交信が続いているとパイルの中からJA3AER/荒川さんの声が聞こえ、久しぶりのご挨拶。Force12とFBなロケ(NL2003年11月号参照)の信号は強力で、それは東日本各局との地域差を感じない信号でした。荒川さんは、JA3BOA/乾さんがMLに流されたSKED情報を基にワッチされていたようですが、その乾さんが聞こえて来ないのは何故?台風の影響か?と思っていたのも東の間、十数局後にはパイルを突き破り、聞き慣れたボーストン~オーシャン…乾さんの信号です。シャックへの到着が少しSKED時間に遅れたそうです。ピークでは59+10dbで来ていました。流石です(NL2003年10月号参照)。乾さんとJA土曜日朝の15mの約束をして73。しばらく続けた後、CWにも移り、多くのJAとの交信を楽しむことができました。そろそろリグのSWを切る時間です。まだまだJAが聞こえているのに家族の待っているホテルへ帰るのはなんとも…でも、そうなんです。これからバミュダでの一日が始まるのです(Hi)。



昼間の行動は省略です(SRI)。

そして夕方です(JAの土曜日朝)。21MHzに期待が高まります。出発前にはJA-VP9のオープンは14MHzも厳しいかもしれないとのアドバイスを某

著名DXerから受けていたのに21MHzです(Hi)。午後(JAの午前)6時半にシャックに到着。期待通りCONDXが良いのか21MHzは賑わっています。でも聞こえるのはWとEUばかりです。JAはもう少し後かなと思い、いつもの移動運用で使わず終いのRTTY用インターフェースを取り出し、21MHz



でCQ、CQ…EUからチラホラコールのあと、パケクラに上がったせいか突然パイルが大きくなりました。しばらくするとパイルの中から突然、JH1・・・とプリントされました。えっ?しばらくするも他にJAからのコールはないようです。結局、21MHzでJAとのRTTYは1局のみに終わりました。が、JAとオープンしていることがわかり、早速、SKEDの21195kHzへ。なんと乾さんの信号が59+で聞こえます。そのままSSBでパイルを楽しみました。昨年11月のKP2とは違い(NL2003年12月号参照)、今回はなかなかフェードアウトしません。しばらくすると携帯電話が…2ndからの「晩飯まだ?」コールでした。後ろ髪を引かれる思いで、ホテルへ帰りレストランへ。私1人興奮してたようで、Xも2ndも少し白けぎみでした…ごめん。明日は、挽回?

August 28, 2004 Saturday

この日も早朝からシャックです。この日のローバンドも前日と同様、NGでした。仕方なしに14MHzへ。インターネットから14SSBをパケクラにセルフスポットすると、突然、JAからのパイルに!いつもながらのパケクラの威力です。何局か交信していると、突然、聞きなれた声でパイルを突き破るコールが…JA3USA/島本さんでした(CQ誌本年6月号参照Hi)。まるで三田のホームからI-Houseのロールコールに出ているような感じです(Hi)。その後、30局ぐらい交信してCWに移ったのですが、CWで最初にピックアップできたコールはやはりJA3USAでした。島本さんのCWを聞いたのは初めて(?)かもしれませんが、サフィックスのUSAは

CWマニアならほとんど単語として頭に叩き込まれている筈ですので、パイルの中では相当のアドバンテージだと感じました。この日の夕方(JA29日朝)は、結局、21MHzでJAはオープンしませんでした。

August 29, 2004 Sunday

この日はKP2にも持っていったVertical Antを10と18MHzにセッティングしましたが、CONDXが悪くNG。でも14MHzはこの日も絶好調でした。最初、CWでCQを出し始めると最初にコールがあったのがJA3PYC/山本さんでした。信号はS7まで振れ、ベランダからの釣竿ANTとは思えない信号でしたが(NL2003年6月号参照)、なんといってもCQの後、最初にコールというのが嬉しかったです、流石のワッチ力です。山本さんならパケクラに上げてもらえるのでは?と期待していたらその通りで直ぐにJAからのパイルとなりました(MNI TNX!)。その後SSBに移りましたが、CONDXがまだ良さそうでしたので、RTTYにもトライ。ここではJAに加えてW、EUからも沢山のコールがありました。その受信音は、これまで経験したことがない壮絶(?)なもので、なかなかプリントできないもどかしさがありました。この日も21MHzでJAとのオープンはありませんでした。

August 30, 2004 Monday

最終日です。帰りのフライトは午後0時50分発。荷支度の時間なども必要ですので、7と10MHzのみで早々に切り上げる決意でシャックへ。10MHzではセルフスポットしながら空振りCQを続けていました。すると、弱いながらもJR7…とハッキリとコールが聞こえました。おそらく相当数のJA各局が10MHzでワッチしてくれていたと思いますが、この局はまさにスーパーでした。今回、10MHzでのJAとの交信は1局のみに終わりました。Edさんに(本当に最後かもしれない)お別れを言い、帰宅の途に付きまして。ホテルを午前11時に出発。時差のために1時間戻すものの、NYの自宅に着いたのは午後3時前でした。数時間前の景色が夢のように感じるくらいの近さです(…NYからは)。

まとめ

今回、ローバンドはNGでしたが、14と21MHzではFB CONDXに巡り合えたおかげで予想以上のJA各局と交信することができました。結果は、総交信数591(内JA473)。JAとのバンド・モード別内訳は30m: CW-1, 20m: CW-226 SSB-139 RTTY-30, 15m: SSB-76, RTTY-1 でした。コール頂きました各局どうもありがとうございました。73!

の方では相手の信号がきこえないこともよくあります。そういう時、エコーリンクで応答があり、お互い今週も元気だったことを確かめあうことがあります。ただ困ったことにはエコーリンクは、フェーディングや混信がなく明瞭度もすこぶる良いので誤魔化しがきかないことです!(笑)しかし連絡事項は、しっかり確認できますのでそれによる素晴らしい点もあるなあとと思っています!エコーリンクを使ってみて、アマチュア無線の間こえるか聞こえないかわくわくしながら、ワッチして相手の声が聞こえた時のうれしさは、やはりアマチュア無線でないと味わえないですね。年齢重ねてもわくわくさせてくれるアマチュア無線はやはり素晴らしいなあと再確認しました。

アマチュア無線とエコーリンク

JR3MVF 三好 京子

	JE6QUJ	Busy	07:22
	JH6NEC	Busy	07:32
	JH7NFM	On	07:33
	JJ1NKN	On	07:33
	JL6OWO	Busy	07:33
	JR3MVF	On	07:33
	JS1XGS	On	07:33
	K1DRW		
	K1HTV		
	K1YCO		



戦後中国から引き上げてきて、大阪阿倍野区の阿倍野警察署の裏で小学生時代を過ごした。自分で言うのも気が引けるが、何にでも好奇心を持つ性格であった。家の前に若夫婦がやっている小さな印刷屋があり証券や賞状を刷っていたが、小学3年（昭和25年）頃学校から帰ったら必ずそこに行き、印刷の工程を飽きもせず見続けた。そのおやじさんは毎日やって来る少年を迷惑がらず、優しくたのびを記憶している。今にして理解できたことだが、その時の印刷方式はオフセット印刷の原型で、版に水が付いた部分はインキが乗らず水の付かない部分はインキが乗って紙に転移し、きれいに印刷ができるのが不思議であった。父親は息子の好奇心の旺盛さを感じたのか、あべの近鉄百貨店の模型売場から模型飛行

アマチュア的物づくり志向への目覚め

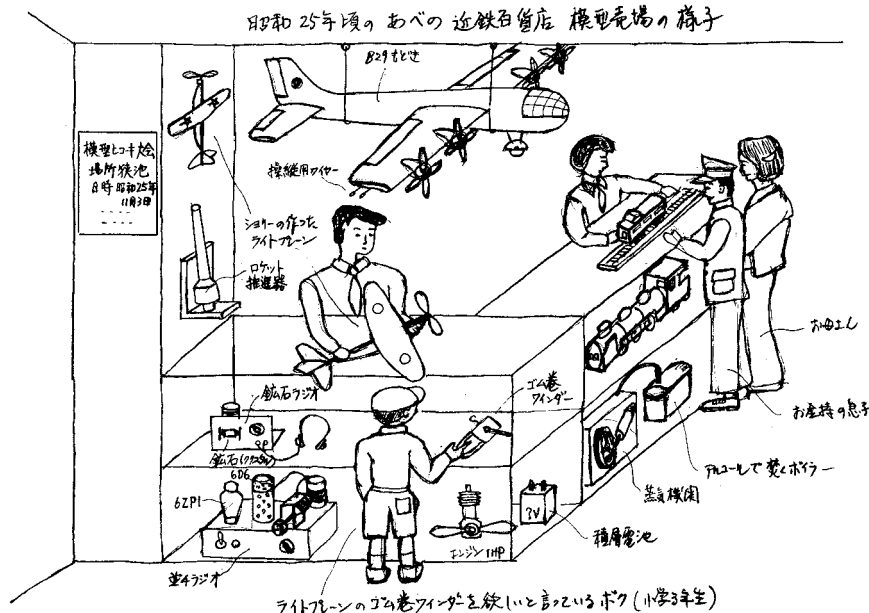
JE3BEQ 宮本 誠一

機作りの名人を聞きだし、私を弟子入りさせてくれるように頼んだ。この名人は30歳ぐらいの脊椎カリエスを患った背中が曲った身障者で、駐留軍関係の仕事をしていて聞いた。ショリーと呼ばれアメリカ人から可愛がられていた日本人であった。この人の得意な模型飛行機は、ゴム動力で滞空時間を競うライトプレーンと呼ばれるもので、竹ヒゴと桐で骨組みを作って和紙を貼り付け主翼と尾翼を作る。当時の男の子は一度は作った経験があると思う。ショリーはこの完成品を近鉄百貨店に卸していた。彼の完成品は美しく芸術品であったが、滞空性能も抜群であった。ここで修行したお陰で私も上達し、小学5年生頃に狭山池で開催された競技会で大人に混じって健闘し、宮杯の楯を頂いた。滞空時間を稼ぐためには、ゴム動力の推進力がある内できるだけ高く揚げ後は運任せであるが、ショリーは色んなことを考えた。ライトプレーンは、ゴム動力が尽きるとそれまで推進力を与えていたプロペラが逆に抵抗になってスピードが落ち、当然のことながら高度がどんどん下がる。これを防ぐためにプロペラを半分切って、切ったほうにバランスを保つため空気抵抗の少ない針金を重りとして付け、またゴム動力が尽きると半分のプロペラも後ろに倒れて、風の抵抗を減らす工夫をした。またショリーは、同じ推進時の風の抵抗を減らす目的で、大きな主翼と小さな尾翼を逆にして、即ち尾翼側にプロペラをつけたものも作って実際に競技に参加した。残念ながらこれらのアイデアが功を奏したかどうかについては今は記憶が無い。しかし常識では考えられないようなアイデアを思いつ

き、試行錯誤を繰り返し、それを競技会のような場で実証する、誠にアマチュア的な物づくりのアプローチであった。当時のあべの近鉄百貨店の模型売場は、かなり充実していたように思う。時代が時代だったので写真も無くその趣を伝えようが無いのが残念である。即ち模型飛行機はB29のような形をした大型の4発エンジンのもの（当時でもこんなものを飛ばす場所は無かったであろうし、エンジン全部を同時に吹かせることは至難であったと想像できる）が天井に吊ってあった。エンジンの容量は1馬力の大きなものが売られており、叔父から借りて一度庭で空吹かしをやってみたが、燃料と空気の混合、点火のタイミングが旨くい

を直接平歯車で伝導しており、今で言う新幹線のイメージがあった。しかしこんなものを走らせられる恵まれた環境の人も少なかったであろう。ショーケースの中には、実際にアルコールでボイラーを炊く蒸気機関もあった。学校では静止模型で蒸気機関の原理を学んだが、それよりも遙か年少の時に実際に炊いて動く蒸気機関のミニチュアに接したときの興奮は今でも記憶にある。続く横のショーケースには、鉱石ラジオ、並四・高一ラジオなどが並んでいた。マジックアイがついた5球スーパーが出てくる直前だったように思う。ラジオへの興味は、この直後に知った日本橋に移っていったことは皆さんと同様であるが、物づくりのイメージが、百貨店は完成キッ

ト、日本橋は部品探しから始まることを子供ながらに理解し、日本橋に行きたいと思う強い願望が芽生えていった。さて模型売場の壁には、ロケット推進器がかけてあった。これは一体どういう使い方をしたのだろうか。記憶があやふやだがカーバイトを水につけて発生するアセチレンガスを自転車の空気入れで注入した空気と混合・圧縮して点火するものでなかったかと記憶している。今時ならロケット弾として危険視されるもので、売り場に並ぶ代物では無く隔世の感がある。とにかく小学生でましてや井の中の蛙であったので定かではないが、あべの近鉄百貨店の模型売り場は戦後この時期を迎えて、かなり内容豊富な夢のある楽しい場所であったことを思い出すのは、ひょっとして私だけでは無いように思う。





The 3rd
Korea DX Convention
Sept. 4, 2004

1 ページより続く

桁使用は初めてのことであり、JARL 本部も郵政省に掛け合ってくれましたが良い返事は帰ってきません。そこで参考資料として世界中の特別なコールサインの QSL カードをコピーして説明を付け郵政省へ提出しました。VI88XPO、HA100KBV、YU30ARG 等、30 枚ほどだったと思います。諸外国では、記念局には前述の付属無線通信規則第 19 条のルール外でコールサインを指定していると現物を見せて説明もしました。お役所は前例のないものの許可には特に慎重なのです。外国であっても例外があるという実例を示したことで、これは効果があったようです。

当時わたしは月に 2 回は郵政省へ行っていましたので、その都度担当者へ説明とお願いにまいました。そんなある日担当の係長から万国博覧会規則を持ってくるよう指示を受けました時には、これで決まったと凄く嬉しかったのを覚えています。この係長は、ジュネーブの ITU 本部に何回か電話して問い合わせと調整をしてくれていたことを後で知り、よくやって戴いたと今でも感謝しています。後日談として、その数年後にコールサインの数字 2 桁についての興味ある話がありますが、今回は 8J90XPO までとします。



一枚の写真から

FP/N2ATT の巻

JA3AER 荒川 泰蔵



米国に駐在中、フランス領「サンピエールおよびミクロン」へ出かけることにしたのは、フランスとの相互運用協定で短期の運用許可が得られるようになったからである。1987 年 9 月のことであったが、このときは日本の免許 (JA3AER) でなく、米国の免許 (N2ATT) で運用許可を得た。出発間際にローカルの N2GKL 秦さんが同行することになり、彼も急遽フランスに運用許可の申請をしたが間に合わず。FP/N2ATT のゲストオペで我慢しなければならなかった。いつも使う日系の旅行会社に航空チケットとホテルの手配を依頼したが、全く情報を持ってい

ないとのことで、以前この島から運用したアメリカ人から情報を得ての準備であったが、彼が残してきたアンテナまで借用することが出来たのは幸運であった。カナダのファリファックスからのプロペラ機は 45 人乗りで、サンピエール島まで約 1 時間のフライトである。

ホテルで秦さんと運用中に、ローカルの FP5HL, Henri と FP5DF, Peter が訪ねてきてくれたが、写真はその時に撮ったもので、左が Henri, 右が Peter である。彼らは英語が話せたので助かったが、ここはフランス語圏である。Henri の誘いで彼のシャックを訪問したが、多分この FP から HF にアクティブなのは彼だけだと思う。

ホテルからは、持参した TS-820 と借用した小型のクワッドアンテナで 14MHz と 21MHz の SSB を中心に QRV したが、2 日間で約 350 局との QSO 中、JA とは 50 局足らずであった。JA のオープンは 1 回で 1 時間程度しかなかったのは残念であった。ニューヨークからだとそれほど遠くない島ではあるが、日本からは遠い島であり、これと言った観光資源もない島に日本人の訪問客は少ない。

大阪国際交流センターラジオクラブ

JI3ZAG

Web page

<http://ja3.net/ihouse>

Newsletter

http://www.ja3.net/ji3zag_nl

会報を自由にダウンロードすることができます

ロールコール

毎週土曜日 9:00JST@14.160MHz

月例会

大阪国際交流センター
毎月第 2 金曜日